

利尻島におけるチュウヒの観察記録

風間健太郎¹⁾・宮本誠一郎²⁾・佐藤雅彦³⁾

¹⁾ 〒468-8502 愛知県名古屋市天白区 塩釜口 1-501 名城大学農学部

²⁾ 〒097-1201 北海道礼文郡礼文町香深入舟 レブンクル自然館

³⁾ 〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

Observation Records of Eastern Marsh Harrier *Circus spilonotus* at Rishiri Island

Kentaro KAZAMA¹⁾, Seiichiro MIYAMOTO²⁾ and Masahiko SATO³⁾

¹⁾ Faculty of Agriculture, Meijo University, 1-501, Shiogamaguchi, Tenpaku, Nagoya Aichi, 468-8502 Japan

²⁾ The natural REBUNCLE, Kafuka, Rebun Is., Hokkaido, 097-1201 Japan

³⁾ Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

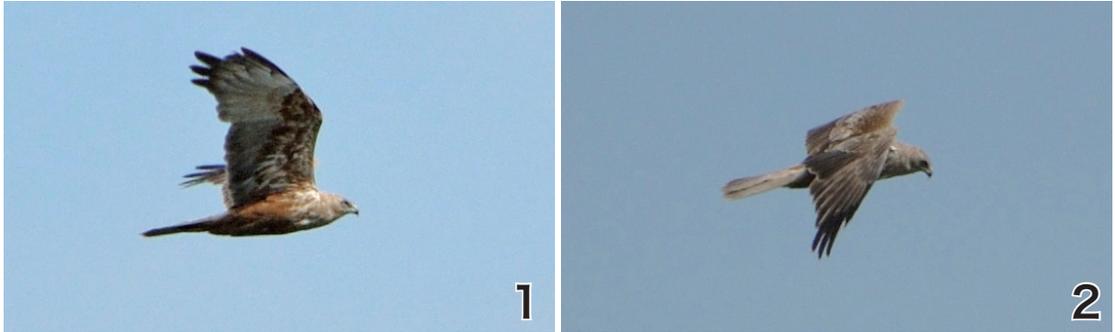
Abstract. Eastern marsh harrier *Circus spilonotus* was observed at Rishiri Island during May to July 2004, 2005, 2007 and 2012.

筆者らによって2004, 2005, 2007, および2012年に観察されたチュウヒ *Circus spilonotus* について報告する。記録は、観察場所, 観察年月日, 観察時刻, 観察者, 個体数, 雌雄の順に示した。

利尻富士町大磯, 2004. v . 11, 9:30, 風間健太郎, 1, 雌雄不明
利尻富士町大磯, 2004. v . 20, 8:30, 風間健太郎, 1, 雌雄不明
利尻富士町大磯, 2004. v . 23, 12:10, 風間健太郎, 1, 雌雄不明
利尻富士町大磯, 2004. v . 27, 7:30, 風間健太郎, 1, 雌雄不明
利尻富士町大磯, 2005. v . 15, 14:20, 風間健太郎, 1, 雌雄不明
利尻富士町大磯, 2007. v . 24, 16:30, 風間健太郎, 1, 雌雄不明
利尻富士町大磯, 2007. vii . 2, 16:00, 風間健太郎, 1, 雌雄不明
利尻富士町大磯, 2012. v . 6, 14:30, 宮本誠一郎・

佐藤雅彦, 1, 雌雄不明
利尻富士町大磯, 2012. vi . 24, 10:30, 風間健太郎・佐藤雅彦, 1, 雌雄不明

2004年から2007年まで記録は、いずれも利尻富士町大磯のウミネコ営巣地で風間により観察された。観察距離は30～50mほどで、写真は撮影されなかった。2004年5月の観察が本種の利尻島での初記録である(小杉, 2000, 2010)。この期間に観察された個体の形態・羽色は全て同様であった。ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* と同程度の大きさ、頭部や胸は黄灰色、体の上面は褐色、上尾筒は白く、体の下面は上半身が淡褐色で暗褐色の縦斑があり、下半身は茶褐色であった。これらの形態的特徴から、観察個体はチュウヒ、ハイイロチュウヒの雌成鳥または幼鳥、およびマダラチュウヒの雌成鳥または幼鳥の可能性があったが、風切の下面と尾羽に明瞭な黒色黄斑がなかったことからチュウヒと判断された(高野, 2004; 山形, 2010)。チュウヒの色彩の個体差は大きく、羽色からの雌雄・幼



Figures 1-2. Ashy Minivet *Pericrocotus divaricatus* observed on 6, May, 2012.

鳥の識別は困難である（山形，2010）。虹彩の色から雌雄・幼鳥の区別ができるが（山形，2010），観察個体の虹彩の色は確認できなかった。

2012年5月には利尻富士町大磯で宮本と佐藤により観察され、写真が撮影された（図1および2）。同年6月には同じ場所で風間と佐藤により観察された。観察個体は、体下面上半身の暗褐色の縦斑が明瞭でないことおよび上尾筒の白色が鮮やかでないこと以外は、2004年から2007年まで観察された個体と同様の色彩を保有していた（図1および2）。そのため観察個体はチュウヒと判断された。この個体についても、虹彩の色は確認できず雌雄・幼鳥の区別はできなかった。

観察場所には高さ約30cmほどの背丈のクマイザサ *Sasa senanensis* が優占し、パッチ状に背丈の高いイネ科が叢生していた。この場所には2011年までウミネコ *Larus crassirostris* による集団営巣地が形成されており、2004年の営巣数は19,000と推定された（小杉ら，2005）。

2004年5月20日の観察個体はウミネコ営巣地内の草原に着地し、数分後に飛び去った。それ以外

の日時に観察された個体は、いずれも数分間草原上空5～10mをホバリング飛翔したり、上空30～50mを巡回飛翔したりした。2004年5月11日、23日、および27日には、観察個体はホバリング中にウミネコ20～30羽およびハクセキレイ *Motacilla alba lugens* 1～2羽に追尾された。

参考文献

- 小杉和樹，2000. 利尻島における月別鳥類出現リスト. 寺沢孝毅（編），北海道 島の野鳥. 150-155 pp. 北海道新聞社. 札幌.
- 小杉和樹，2010. 利尻島の野鳥リスト. 利尻島自然情報センター. 自刊.
- 小杉和樹・杉村直樹・佐藤雅彦，2005. 利尻島におけるウミネコの集団繁殖地について (1) - 2002-2004年における推定総個体数の推移 -. 利尻研究, (24): 29-35.
- 高野伸二，2004. フィールドガイド日本の野鳥・増補版. 日本野鳥の会.
- 山形則男，2010. 新訂ワシタカ類飛翔ハンドブック. 文一総合出版.